



表紙の写真
「将棋頭」

戦国時代、当選一の軍略家として甲斐の国を統治し、上洛を夢見、志半ばで死んだ武田信玄。その信玄は一方では民政家としても名を馳せている。

そのひとつに「油山治水」政策がある。大雨のたびに起こる大河川、とりわけ釜無川の洪水を緩和する方策としての「信玄堤」は今に残る。

「将棋頭」は、ちょうど将棋の駒の頭を上流に向け、釜無川に流入する御動便川の激流を二分した。水勢を弱め信玄堤に直撃当たらないようにした。自然たい積した表面に石を張りつけ、積み上げただけの構造だが、これにより下流一帯の水害はなくなった。

(写真と文:浅川 稔)

[MUH] vol.10 1996.10.1

企画／早野グループ「MUH」編集室

渡辺道生・矢田道生・桜林友美・久保田克一

編集／株式会社ニュースメディア甲府

三神弘・三井君男・名取秀浩・山川エミ・高山

ひとみ・赤井美佐穂

日本工業経済新聞社

印刷／有限会社オズプリント

誌名の「MUH」は、早野組の社訓である「和」を託した

Man(仲間)、Union(結束)、Harmony(調和)の頭文字

からとりました。幻のムー大陸のロマンを目指します。

フォーラム		
テーマ ワープロ	江宮隆之・吉屋久昭・岩崎正吾・佐藤真佐美	2
特集		
山梨21 古屋 真知子	さん(染色家)	4
ホスト 早野 潔		
京都で学んだ染色技術 型から抜けたいと奮起		
次代へのメッセージ あふれ出る花の色調		
データ 染色と私		
トピックス		
来たるべき者達—		10
企業ウォッチング		
山大株式会社 鈴木 高明	氏	13
サークル訪問		
どうよう「チャンコの会」		14
インフォメーション		
トヨタホーム山梨・甲府通運・早野組・トヨタビースタ山梨		16
ようこそ屋敷		
ハインリッヒ・ハム		18
アートへのまなざし		
ボクの美術品観察日記3		20
トレンド		
温泉		22
BOOK	こんなところに山梨… BOOKコーナー 宝の小箱	23
リレーエッセイ		
戦国城下町「甲府」		24
甲府通運前史を訪ねる(4)		25
ユーザー訪問		
有限会社 サイトー冷熱		26
お家見聞		
依田 和幸さん (若草町)		27
ワンポイント情報		
トヨタビースタ山梨・トヨタホーム山梨		28
ときのひと・FACE		
新舗装エコメロウマットを開発した・水上至永さん		29
おしゃれ BOOK・OFF / たべる デニーズ		30
お茶の間の民俗学(1)		
一年中行事の習俗とその心—	志摩 阿木夫	31
コラム		
某月某日		32



「新聞記者」

江宮 隆之

新聞社では、今や9割以上の記者がワープロで記事を書いているという。原稿用紙に向かって、鉛筆やボールペンで「考えながら」記事を書き、辞書を引いて漢字の書き順や通名を確かめることなどは、「もう過去のことですよ」。そう言われて驚いたのが、数年前。「それにしても、機械を使いながら文章を考えることが出来るとは、若い人というのは凄いものだなあ」。そんな感想を持ったものであった。

まるでピアノを弾くような、ドラムを叩くような（自分には決して出来やしない難事）のひとつが、ワープロであった。第一、機械を叩きながら文章なんて考えられる訳などない、と。

「いいかい、皆は新聞記者。今は機械を叩いて文字を打つから『新聞打者』、いまにもっと凄い機械が出来て、しゃべれば音声がそのまま文字になって出てくるようになるだろう。そうすれば『新聞記者』だ」。そんな冗談を言ったら、相手が顔を歪めた。「新聞打者は分かりますよ。でも、新聞記者はねえ。だって、山梨県の人だったらまだいいですよ、標準語の発音が出来るから。でも…。身に付いた訳だけはどうにもならないでしょう」

その人の名前は「栄二」といった。「私は田舎に戻ると『えいじ』と呼ばれるんですよ。この間に『エイズ』だなんてねえ」

その人の、故郷は東北地方で、確かに話していると独特の訛りがあった。だから『新聞記者』にはなりえないというのである。「それじゃあ、エイズのことは『えいじ』と発音するのかな」とは冗談にも言えなかった。あっさりと、『新聞記者』の話題は引っ込んだ次第である。

ところで、鉛筆で書いてきた原稿をワープロに代えてから20カ月が経った。「書うより慣れろ」とはよく言ったもので、打てる打てる。「打つ」ということで言えば、ゴルフよりも簡単である。以来、この原稿に至るまでワープロのお世話になっているが弊害もある。漢字を忘却することの甚だしさが、それ。もっとも『記者』の時代になると漢字もいらないか。…待てよ。

■1948年福井市生まれ。山梨日日新聞記者を経て現在も同社勤務。『経済記』で第13回歴史文学賞受賞。後に『涙の箱』『白銀の人』など。今秋河出書房新社から『カネゴンの日だまり』を出版予定。

「ワープロ、私が教えた

古屋 久昭

その昔、よく映画を観た。洋画の現代ものを観ていると、男性主人公が、カチカチカチとタイプライターのキーを打つ姿が映し出され、何となくその姿に憧れたものである。タイプライターはやがて翻写版と入れ替わって私の職場にも置かれ。共同物として扱うようになったが、映画のように恰好良くはいかない。カチヤンカチヤンの音ばかりが周りに響いた。

そのうちにワードプロセッサーというものが発明され、私の職場にも置かれることとなった。かいつまくのあった昭和61年のころである。早速、ワープロ技術講習会が持たれ、各課から1~2名が参加できることとなり、私としては若い職員を優先的に推薦し受講できるよう配慮した。ところがである。ニガテ意識なのか誰も覚える気がない。それならばと、何でも飛びつきながら手を挙げた。

講習会場へ行ってみると、ほとんどの全員が若い人たちばかりであった。私は一瞬戸惑った。がすぐに不安も消え、キーをいじくり始めた。午前の部が終り、一日が終り、あっという間に三日間の講習が終った。職場に戻り、ワープロの前に座り、若い職員を囲りに集め、自慢気に講習の成果を披露した。するとその便利さに職員からはタメ息さえ漏れるほどだった。

新種の機械ものを私が後輩に教える、考えられないことが起ったのである。そのうちに自分の家にもワープロを置きたくなかった。その頃のワープロはテレビのようなごついワープロで机の面積を独占してしまうほどだった。我が家も四代(台)目となり、今はカラー印刷はもちろん、あらゆる機能が内蔵されている。当然私にはすべての機能を使いこなせるなどの技術はない。そのことはもう、とおに説めている。

それよりもである。世間では数年前からパソコンが当たり前になってしまった。これには私も遅れをとった。今やっとこの方の講習を受け始めたばかりである。講習にはインターネットも操作できるパソコンがつい先日入り、インターネットのアクセスもちょっとやってみたが、これがまたスゴイ。まさに情報革命である。いずれ我が家も遅れながら、ワープロからパソコンへの移行の時がくる。

■1943年福井市生まれ。日本現代詩人会会員。詩集、エッセイ集のほか先ごろ童謡集『虫らしく、花らしく』を出版。

「ワープロに向かい、こう打った…」 岩崎 正吾

ワープロを5台持っている。レーザープリント付き高級機、ノート型、中型機3台。会社、仕事場、家、車の中。行く先々に置いておくのは、ワープロがないと仕事にならないからだ。

その日、ワープロに向かって、こう打った。「8月8日、寅さんが死んだ…」わたしは日記もワープロで打つ。

寅さんが逝ってしまうのではないかと予感したのは、前作を観た時である。声が嗄れ、張りがなく、何より表情に乏しかった。こりゃヤバイと思ったが、私ごときがどうすることも出来ない。

死んだと聞いて、もっと前から変だったと思い当たった。

このところの数作は、甥の満男君のラブストーリーを中心だった。マドンナは後藤久美子、牧瀬里穂、寅さんは満男君の恋愛指南役にまわっている。つまり出番が、以前よりずっと減っていた。

おそらく寅さんは、この間にガンにかかっていた。それでも、正月に顔を出さなければいけなかった。いくらドル箱の映画でも、ガンにかかっている人間を会社が無理やり出すわけはないから、これは本人の意志だったろう。休養して治療するよりも、潤美清が寅さんとして死にたいと望んだのと思う。

だから、誰も知らなかつたなんてウソっぽちである。監督も会社の関係者も、おいちゃんもおばちゃんも、さくらも満男も、みんな寅さんの病気を知っていたろう。知っていて、知らん顔をしていた。因縁のリリー(浅丘ルリ子)を登場させたのも、最後を飾る演出だったに決まっている。

「つまり、人生は演劇なのであって、人は何者かを演じ、その何者かとして死んでいくということなのだろう。徹底して演ずるものを持った人間は幸せだ」

しかし、それにしても「寅さんの来ない正月は寂しいことだろう。何しろ、30年近く習慣なのだから」と打って、わたしはワープロを消す。

■1944年甲府市生まれ。小説家。長編歴史ミステリー『異説本能寺・信長殺すべし』が講談社文庫として再刊。新しい信玄を描いた長編歴史エッセイ『武田信玄はどこから来たか—武田騎馬隊の謎を追う』(山梨ふるさと文庫刊)が話題を呼ぶ。

「壮大な掘らば梨」 佐藤 真佐美

小説というのは壮大な掘らば梨であり、作家は優れた詐欺師でなければならない、というのがほくの持論なのだが、井上ひさしと半村良は、ほくの独断と偏見では彼等こそ「鬼才」と呼ぶにふさわしい。税務署口似んの最高級の詐欺師で、この二人の作品はおおよそ70%がた目をと押している。

ということを、古く空の友人である手漉き和紙職人の宮本重さんにお話をしたところ「本嫌いのはくも、井上ひさしの作品だけは出版されるとすぐ買い、彼の本は100%呼んでいる」と、驚くべき井上中毒患者ぶりを示し、「あの人は毛筆が何かで原稿を書いているらしいんですけど、その井上さんがいよいよワープロを買うという記事を雑誌か何かで読み、ほくはがっくりきました。あの人にワープロは似合いませんよ…」

宮本さんの井上中毒は症状が重く、彼は相まれもせぬのに、試行錯誤をくりかえしてガンビの繊維の紙を完成。一枚流くのに手間費が500円を超えるような高級ガンビ紙を3000枚漉き、原稿用紙の升目を印刷して井上ひさしに送りつけた。「あなただけはワープロを使わないでほしい」という手紙を添えて。井上さんからはすぐに「毛筆はもちろん筆でも鉛筆でも乗りが良い」と、ガンビ紙を絶賛し、ウン万枚でいくらになるか見積もってほしいという手紙が来たという。

清水義範の作品もときどき読む。彼の場合は「奇才」がふさわしく、「国語入試問題必勝法」は一談の価値あり。「永遠のジャック&ペティ」(ともに講談社)もお勧め品で、この原稿を依頼されたとき、「抨啓 この度、わたしも時代に遅れ茶如何と思ってワープロ…」で始まる「永遠のジャック…」所収の「ワープロ最さん」を思い出した。拙文冒頭の「掘らば梨」は「法螺話」、「税務署口似ん」は「公認」、「目をと押して」は「目を通して」、「古く空」は「古くから」のつもりだったが機械はいうことをきかぬ。井上ひさしを憂える宮本さんのお節介(失礼)は、あんがい間とを、いやいや的を射ているのかもしれない。

■1939年北海道生まれ。日本児童文学研究会員。日本訓讀學協会会員。著書に『怪奇! 大東京妖怪ゾーン』(ポプラ社)『文ちゃんのはるかな知床』(北海道新聞社)近著に『シレットフのシルバー』(華英社)など。

染色の可能性をひらく
未来へのメッセージ
もっと夢を、さらに希望を

ゲスト

ふるや まちこ
古屋 真知子さん
染色作家

ホスト

はやの きよし
早野 潔
早野組社長



古屋 真知子さん

■古屋 真知子

染色作家 甲府市生まれ。1977年嵯峨美術短期大学卒業。1981年山梨造形美術館・会員選挙(山梨県立美術館)。1991年(社)現代工芸美術協会・会員選挙。1992年山梨造形美術館・審査員推挙。<歴史>1984年から1993年の間に日展入選5回。1991年日本現代工芸美術展・現代工芸記念賞。1996年日本現代工芸美術展・会員賞受賞。

**京都で学んだ染色技術
型から抜けたいと奮起**

早野 素敵なお召し物でおいでいただきまして、ありがとうございます。ご自身のお作でいらっしゃいますか。

古屋 はい。お褒めをいただき光栄です。

早野 ろうけつ染めの美しさというのは、自然の素材である絹と染料だけがもつ透明感、そして繊細さといつてよいでしょうか。染色をはじめられて、もうどのくらいになられますか。

古屋 少女時代から京都に憧れておりまして、嵯峨の美術学校にまいりました。油絵を学んでいたのですが、京都は伝統ある染色の町でして、いつか関心がそちらに移っていました。

京都には京友禅という染めもあるのですが、ろうけつ染めを選択したのは、この手法は描くことに近い表現が可能で、油絵を専攻していた私はふさわしいと感じました。

工房に入社し、2年半ほど毎日着物にろうで描いていくという仕事をしていましたが、いつからか疑問と、も

うひとつの仕事への欲求が芽生えてきました。それは、商品としての染めにはやはり型があり、もっと自由に表現したいという情熱は抑えなければなりません。

早野 京都という土地柄、また、染めという伝統技術には約束事や、制約も多いでしょうね。仕事も分業化されているのでしょう。その不満や、創意こそが、作家を誕生させていくエネルギーになるのでしょうか。

古屋 そして、ふるさと山梨に帰ってきました。着物から離れて、現在に至るパネルの作品に新分野をひらいてきました。

**次代へのメッセージ
あふれ出る花の色調**

早野 先頃、東京都美術館で開かれた第35回日本現代工芸美術展で、古屋さんの染色作品「希望への刻(きしょうへのこく)」が会員賞を受賞されました。この御作は、チューリップの花束が画面いっぱいに描かれ、色調の変化が鮮やかで、希望に向かって伸びていく命の強い意志というものを感じました。

それから、ろうけつ染めの奥の深

さといつていいでしょうか、着物という伝統の表現も、現代を描く先進美術の表現までをも可能にしてしまう力ですねえ、これには驚かされました。もとより、これはご自身の才能によるものなのですが。ろうけつ染めについて、もっと、もっと知りたくなります。

古屋 ろうけつ染めはシルクロードを経て中国に入り、わが国に渡っ

てきたといわれています。はじめは「ろうけつ」ではなく「ろうけち」と呼ばれていました。ろうを溶かして布につけ、ろうで描いた部分だけが染まらないようにして模様を表現していく染め方です。

古来には、このろうけち染めのかに「きょうけち染め」「こうけち染め」というのがあったそうです。きょうけち染めというのは、彫りもの



早野 潔

をしてある板に布を挟み、染料を注いで染めるという方法で、現在の型染めだと思います。

こうけち染めは、布を縛ったり、くくったりして染める方法ですが、これは今日の絞り染めのはじまりでしょうね。ろうけち染めは天平時代に盛んとなりましたが、ろうを扱う技術は大変難しいため、やがて絶えてしまいました。

早野 それは惜しい。脱ろうする技術が困難だったのでしょうね。手による伝承は、いったん中断されると、もう駄目ですね。

ろうけち染めの伝承 天平時代に盛んに

早野 ろうけち染めが復活したのは、いつのことですか。

古屋 大正時代まで待たなければなりませんでした。正倉院に遺されたろうけち染めの解明と研究がなされました。そしてやっとよみがえることができました。そして今日に至ったわけです。

さて、ろうけち染めですが、およそ140度ほどの温度で溶かしたろうを用い、筆で生地に模様を描きます。防染する部分にですね。ろうにもい



いろいろ種類があるのですが、表現や技法によって配合します。ろうで描き終えましたら、染めに入りますが、染料も植物染料、化学染料があり、しかも多様で、使い分けることによって効果を上げることができます。

早野 次に困難な、ろう取りの作業へと続くわけですね。

古屋 現在では、揮発油やシンナー系のもので取ります。脱ろうが済みましたら、次に蒸しです。京都

では専門店がありますが、山梨にはありませんので、私は反物を筒上にし、お芋を蒸すような感じで作業をします。これで染料がしっかりと布に定着します。

それから生地に付いた汚れを洗い流すのですが、これは京都の友禅流しなど、どちらも川で流す風景をご存じだと思います。しかし、これも山梨では無理なので、風流ではありませんが、私は自宅のお風呂場で行



います。水洗いが終わったら、日陰干しをし、仕上がりとなります。

困難な時代の夢づくり 母親の愛とまなざし

早野 繊細な作業と、力のいる工程を経て仕上げられたこの「希望への刻」ですが、制作期間はどのくらいだったのでしょうか。

古屋 染付けからしたら1カ月ほどですが、その前段階、図案を考え

るのにたいそうかかります。テーマを決定し、モチーフが決まりますと、スケッチに入れます。図案ができますまでに2カ月、こんどは布への下書き作業です。油絵ですとキャンバスを立てますが、布ですから、張り手というのですが、布を浮かした状態にして引っ張り、京都の職人たちと同じような格好で取り組みます。

早野 部合3カ月をかけての、精力を傾けてのお仕事ですね。その丹念

さのなかに、作者の声が、メッセージが籠められていくのだと思います。それが見る人の心に伝わっていく。

古屋 ありがたいご批評です。制作にあたっては、常にその時のテーマに沿って意図や主張が表現されていくよう努めています。愛する者たちに未来のメッセージとなるような作品をと心に決め、精進しております。

この「希望への刻」は、子供たちが生きていくには大変困難な時代ですけれども、夢と希望をもって飛翔してほしいと願っての作品です。

早野 そうした制作に臨まれる姿勢や、発想の原点というのは、山梨にお生まれになったというふるさと意識、ご結婚されて自然環境に恵まれた大和村にお住まいになっているという日常、また、母親としての立場とどんなふうに間わりをもつていいのでしょうか。

古屋 大和村は四季がはっきりしている土地柄で、小さな野の花にも目が留まり、自然に呼び覚まされていく自分を感じます。それは新鮮な感動であり、とてもスケッチしきれなくて、追いまくられているような



こともあります。

しかし、お年寄りは、昔は山一面にホタルブクロが咲いていたものだったが、この頃は探さなくては見つからないなどと言います。そういうえば、私が嫁いできてからのわずかの間にも、野の花は少なくなってきたことを認めないわけにはいかなくなっています。

早野 そこに「自然は美しい」だけではすまないものが生じますね。

古屋 ましてや母としては、子供たちがやがて生きる風土を、社会を思わないわけにはいきません。政治や社会にはうといのですが、自然破壊ばかりでなく、宗教問題や学校ではいじめや自殺と、なにか漠然とした危機感と不安を感じます。

私は何ができるのかと自問することがよくあります。やはり作品しかありません。作品をとおして、愛する者たちへ、未来へ、メッセージを籠めるほかはないと。

私はごくごく平凡な主婦であり、3人の子供の母です。ただ、少しずつでも人間として成長していくことによって、作品も伴っていくのではないかと、そう信じ、日々を大切に暮らしています。

らしております。

互いのよさを引き出す 現代空間への挑戦

早野 ろうけつ染めの歴史や、作業工程、また、伝統のなかから新しい試みをと意欲をもたれた動機もうかがいました。現代社会への批評精神が、新しいメッセージを誕生させていくのだという制作の秘密にも触れさせていただきました。

陶芸家と染色の私との二人展でしたが、晩秋にふさわしくススキをモチーフにした屏風や衝立を制作し、古い民家の風情にふさわしい住空間の構成をいたしました。

さて、古屋さんのこれから抱負を聞かせてください。若い世代にふさわしい展望がおありなんでしょうね。

古屋 この頃考えておりますのは、染色の可能性を引き出し、美しく染め上げた繊維を用いて、空間を造形していくことです。これは、いろいろな材質を併用して、絵画とか工芸とかの区別にこだわらない造形作品を目指すものです。

早野 現代建築に携わるものとして、大変興味をそそられる分野ですね。かつて陶芸家とご一緒に、勝沼でしたね、100年以上前に建てられた民家を会場に「野に暮らす二人展」というテーマで展覧会をなさいましたねえ。

古屋 はい。建築、空間、インテリア、そういうものの全体を大きなアートととらえまして、ひとつひとつが主張し合はず、それでいて互いに相手を引き立て合うような、そういう造形をイメージしてみたいと思いました。

陶芸家と染色の私との二人展でしたが、晩秋にふさわしくススキをモチーフにした屏風や衝立を制作し、古い民家の風情にふさわしい住空間の構成をいたしました。

今後も、染色を現代的なものに、しかもその可能性をパライティーのあるものにしていきたいですね。

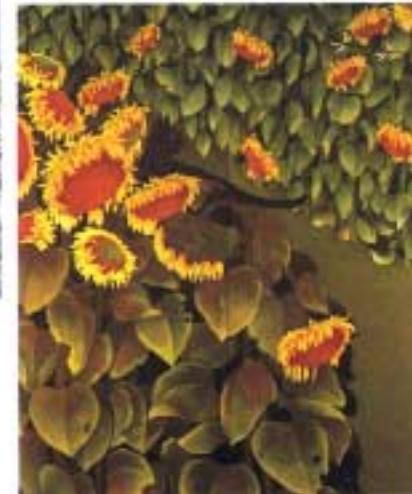
早野 全体の調和を尊び、ひとつひとつが主張し合はず、それでいて互いに相手を引き立て合うという意識は、これは、人間社会の理想、あるべき姿にも共通するテーマですね。人間と自然との関係においてもいえる、企業や、学校においても、家庭においてもいえることです。

これからもチューリップをモチーフにした連作に向かわれるのでしょうかが、どうか夢のある花を私たちにプレゼントしてください。

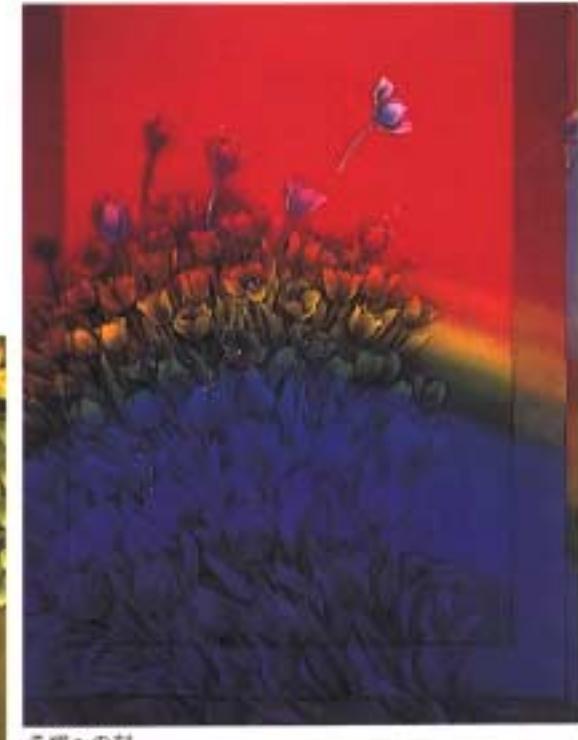
[構成：三神弘]



悠久の時



秋迎



希望への刻

私と染色 古屋 真知子

染色を志し、一九年となりました。京都に居りました頃は着物を描いておりましたが、より自由に表現したいと山梨にもどりましてからは、着物から離れ平面の作品へと移りました。十年間程は、好きな黒猫をモチーフにし、自然から受けた自分の感性を黒猫を通して多彩に表現しようと試みました。第23回入選作品「秋迎」は、向日葵と猫の作品で、黒猫のモチーフでは最後となり思い出深い作品となりました。

数年前、長野に出かけました折、美しい自然が人間の手で汚れ、衰退している様子に衝撃を受け、人間が犯し続けてきた自然への罪を見据えて、表現したいと取り組んでおりました。その頃の作品、第25回入選作品「悠久の時」は画面の半分以上に、どくだみ草、はたる袋、山紫陽花、月見草と野の花いっぱいに描き、その奥に現代社会をビルディングで表現しました。美しい自然と現代社会が共生していくことができれば素晴らしいだろうと願っての作品です。

二、三年前から、自然破壊ばかりでなく、オウム事件や、学校ではいじめ・自殺と母親としてとても心を痛める事ばかりで、何か漠然と危機感を感じております。そんな事から、何か愛する者への未来へのメッセージとなるような作品をと心に決め、精進しております。

今年の日本現代工芸美術展で、会員賞をいただきました作品「希望への刻」は画面下から上部へあふれるようなチューリップの花束の上に虹をかけ、下方の暗い部分から徐々に明度の高い色彩に変化していく過程に、時間の経過や未来への希望を表現しました。子供達が生きていくのに大変困難な時代ですがとも、夢と希望を持つて飛翔してほしいと願っての作品です。

現在取り組んでおりますのは、ホテル「君住」さんのフロントに飾られる予定の横一メートル六十センチの大作です。石和町の町花が月見草なので、私も好きな月見草をあしらった心が和むような作品を制作したいと頑張っております。

またロビーには屏風が二、三點飾られておりますので、何かの折に御覧いただければ幸いに存じます。

創作に対して、最近思いますのは、染色の可能性を引き出し、美しく染め上げた繊維を用いて、空間を造形していく事です。いろいろな材質を併用して、絵画とか工芸とか区別にこだわらない造形作品を制作してみたいと、それは今超情報社会が、むかしむかし置き忘れてきた物・心を形にしていく、真心の豊かさを表現していく事につなげたいと、夢を追いつけております。

急増する感染症
O-157をめぐる「その世界」

来たるべき者達—

現代医学を持ってしても、もはや限界かもしれない。近年、そう嘆く医者達が急増しているという。

今夏、日本中を席巻した病原性大腸菌O-157は、「その世界」から見るとまだ生易しい部類に入るというが、それでも多くの子供や老人を次々に襲った。

「その世界」。実に人類の歴史は、彼らとの激闘の記録と言っても過言ではない。彼ら—細菌やウイルスによる疾病が近年急速に増大して来ている。エイズ、エボラザイール、ラッサ熱、C型肝炎—などのウイルス疾患をはじめ、MRSA（耐性ぶどう球菌）、O-157、サルモネラ菌、ペストなどの細菌によるものなど。

特に細菌による疾患では、これまで伝家の宝刀だった抗生物質が効きにくく、あるいは全く効かないものが出現するに及んで、病院での死亡事故も発生するなど事態は深刻だ。これら抗生物質に耐性を持つ細菌達には、それを抑制するためにもっと強力な抗生物質を投与しなければならず、それにまた耐性を持ち、またそれよりもより強力な—というよう

にまさにイタチごっこの様相を呈している。しかし、ベニシリン、ストレプトマイシン、ネオマイシンなどの抗生物質は、それでも細菌達のイタズラに大きな効力を發揮していることは間違いない。13世紀のライ病、14世紀のペスト、そして梅毒は、近代が幕を開けるまでは難治と言われ、特にペストは1億人に及んだヨーロッパの人口のおよそ25%に相当する2,500万人の命を奪い、かの榮華を誇ったローマ帝国を滅亡させた。それが、1940年、すでに発見されていたベニシリンに抗菌効果があることが確認され、ストレプトマイシン、アクチノマイシン、クロラムフェニコール、エリスロマイシンなどのいわゆる抗生物質が続々と発見され、これまで難治と言われ続けた細菌疾患を克服した。

Fear of Virus(ウイルスの恐怖)

そうした偉業もつかの間、実は現代文明の発達と共に力を蓄えて、虎視眈々と人間を脅かしている存在がある。一般にはウイルスと呼ばれる連中がそれだ。このウイルス、生物

でも無生物でもないという奇妙な存在だ。子孫を増やすのに必要な遺伝子しか持たない。

ウイルスは増殖のために、生きている細胞を使う。そこで自分の遺伝子を、宿主細胞の遺伝子が新たに生成される時を狙って、自分のコピーを作ってしまうのだ。自分を宿主の細胞と同化してしまうという特性を持つ。1つの細胞から何千というコピーを作る能力を持っている。さて、このウイルス、何がそんなに問題かというと、まず治療法が全くない。つまり抗生物質といった薬物投与による化学的な治療法が不可能であることが挙げられる。これは前述したが、宿主の細胞と同化してしまう性質を持つため、薬を投与すると宿主まで破壊してしまうという事になるためだ。ワクチン（弱毒化したウイルス）を投与し、体の免疫系にそのウイルスをインプットさせて、免疫細胞によって自然治癒させるという方法しかない。それならばワクチンを造れば—という議論になるが、実はウイルスは変身する。環境が変化すると、ウイルスの遺伝子も変化し、その形状が変わる。そうなると前も

ってワクチンを投与していても、形が違うために免疫系がそれをウイルスと認識せず攻撃しない。インフルエンザの予防接種があまり効かないと言われているのは、変異するインフルエンザウイルスを前もって予測できないために、免疫系が稼働するのに相当な時間がかかるためだ。

現代の医学では殆どお手上げといつていいウイルス疾患。光明は見られるのかというと、実は暗中模索。しかも次々に新種のウイルスが発見されているのだ（図参照）。従って致死率という点でも群を抜く。エイズ、エボラ、ラッサ、コクサッキー、デング、C型肝炎、西部ウマ脳炎、マールブルクなどは軽並み数十%を超える死亡率。特にエボラザイールは、一昨年「アウトブレイク」という映画にもなった程話題となったウイルスで、記憶されている諸兄も多いと思う。中央アフリカで大流行し、村や町を席巻。一説では数万単位の死者が出たという。

何故、今なのか

ウイルスの起源についても諸説

西暦	病原体	病 気
1973 >	ロタウイルス	感染性下痢症
1975 >	パルボウイルスB19型	第5病、伝染性紅斑 再生不良性溶血性貧血
1976 >	クリプトスピロジウム	急性腸炎
1977 >	エボラウイルス レジオネラ菌 ハンタウイルス キャンピロバクター菌	エボラ出血熱 レジオネラ症（在郷軍人病） 腎症候性出血熱 腸炎
1980 >	ヒトT細胞白血病ウイルスI型	成人T細胞白血病
1982 >	大腸菌O-157:H7型 ヒトT細胞白血病ウイルスII型 ボレリア・ブルグドルフェリ	出血性大腸炎、溶血性尿毒症性症候群 毛細胞白血病 ライム病
1983 >	ヒト免疫不全症ウイルス(HIV) ヘロコバクター・ピロリ菌	エイズ（後天性免疫不全症候群） 胃潰瘍、萎縮性胃炎
1988 >	ヒトヘルペスウイルス6型(HHV-6)	突発性発疹
1989 >	エールリヒア・カフェンシス C型肝炎ウイルス	ヒト・エールリヒア病 C型肝炎
1991 >	グアナリトウイルス	ベネズエラ出血熱
1992 >	コレラ菌O139型 ロカメリア菌	流行性コレラ ネコひっかき病
1993 >	新型ハンタウイルス	ハンタウイルス肺症候群
1994 >	サビアウイルス	ブラジル出血熱

発見年は、初めて分離された年または初めて論文発表された年。CDCの資料による。

頃々で、定説となるものはない。細胞内で実際にうまく反応するので、もともと細胞内にあったものではないかという「細胞由来説」や細胞内の遺伝子の一部がなんらかのキッカケで外界に出て、それが変異した「家出説」など。ウイルスの寄生する細胞が限定されていることから、やはり我々の一部だったという説が有力だ。

いずれにしても予測の域を出ないが、その数だけで数百万種類くらいいるのではないかとさえ言われている。それらのほとんどが、大なり小なり元のオーナーである人間や他の生物に反応する訳だ。

それでは何故、今ウイルスの時代なのか。

世界のウイルス研究の最前線であるCDC（アメリカ疾病管理センター）の報告書によると「ウイルスの温床である赤道地帯の乱開発と急速な文

明化によって、人間の手がその地帯に入ったこと。それが交通手段の著しい発達によって世界中にウイルスを蔓延するシステムを構築してしまっている」などを挙げている。

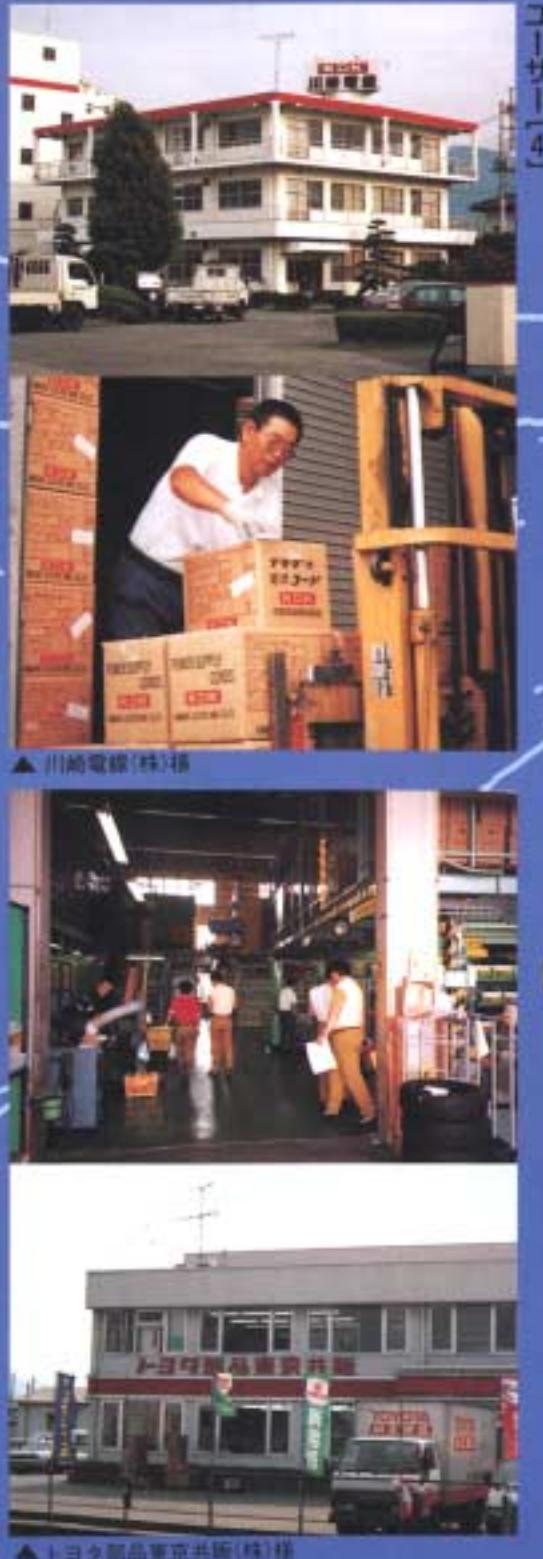
つまり人間の欲望の代価が、ウイルスの蔓延を引き起こしている事になる。相互交流が可能になり、世界が小さくなったりと言われるリスクがまさにウイルスなどによる感染症の爆発を惹起しているのだ。

対岸の火事ではない。1992年にエボラザイール（死亡率90%）をはじめ、ハンタウイルス（死亡率70%）、ラッサ熱（死亡率25%）など日本では見られないウイルス疾患が次々に上陸を果たしている。

生活の便利さと引き換えに密林からも多くの招かれざる者達を呼んでしまった人間。彼らと共に存できる日は来るのか。

〔文：新谷敏之〕

山梨を拠点に限りなく拡がる 物流の可能性



ユーモア

Yes
We Can

事業内容

- 一般貨物輸送…一般、常用、専属
- 重量品輸送…取付け、取りはずし搬出入作業
- 入出荷請負い…荷造り、梱包作業、出向代行業務
- 引越し輸送…ご家族のお引越し、事務所・工場の移転等
- JRコンテナ輸送取扱い
- 一般貨物全国定期便、宅配便、航空便取り扱い
- 保険代理業務

甲府通運株式会社

本社 〒409-38 山梨県中巨摩郡田富町流通団地3329-1
TEL.0552-73-0611 FAX.0552-73-9332
甲府営業所 〒409-38 山梨県中巨摩郡田富町流通団地3211-14
TEL.0552-73-5471 FAX.0552-73-6277
東京営業所 〒174 東京都板橋区東坂下2-3-10
TEL.03-3967-6001 FAX.03-3967-6124

企業ウォッチング

山大株式会社

代表取締役社長

鈴木 高明 氏

ナオミ カウミ

●山大株式会社データ●

昭和50年創業。ハシゴの町六郷町にある創業100年、日本一の旧暦、象牙美術品卸問屋、鈴木屋の関連会社で、信頼における販売をモットーに、あらゆるニーズにこたえられる幅広い商品構成を誇っている。印章のほか、貴金属、宝石類、装身具、アクセサリーなどを扱っている。本社・〒400 甲府市横生2丁目5番17号 TEL.0552(27)3711・3712 FAX.0552(27)3713 関連会社 鈴木屋・明治40年創業。〒409-32 六郷町前開1975 代表・鈴木順子 TEL.0556(32)2171 FAX.0556(32)2136



御坂山地の南西部、富士川渓谷の東北部に位置する六郷町。昭和29年に落居、岩間、宮原などの6か村が合併して町制施行したこの町は、現在では日本一の「ハンコの町」としてつとに有名だ。

町の基幹産業として全国シェアのおよそ50%を占める。ちなみに町の全人口の70%は同業の従事者。言ってみれば3人に2人はハンコ屋さんというわけ。

ハンコといえば「山大」 創業百年の老舗

「人の身分を証明するものですから、それを作っているんだという誇りはありますよ」開口一番、山大株式会社代表取締役社長の鈴木高明氏は言う。今回取材で訪問した山大株式会社は、創業100年という老舗で、有数の印章、象牙美術品卸問屋鈴木屋の関連会社として、印章のほか、貴金属、宝石、装身具、アクセサリーなどを扱っている。

さて、その鈴木氏。東京での修行の後、社業を先代から受け継いでこの世界へ。「とにかく信用が第一です」と言う。商品の性質上、顧客の固定化が難しいと言われるこの業種では、きめの細かいフォローが求められる。口コミや紹介といった需要が多い。そのためにも仮に一見の顧客でも、そのニーズを汲み取って上げて丁寧に対応することが大切。そうした姿勢が顧客から顧客へ、また次の顧客へとネットワークが広がっていく…。

取り扱い商品は勿論ハンコだが、一口にハンコといっても数多くの種類があることに驚かされる。素材ひとつ取っても、象牙、水晶、石、メノウ、ヒスイ、ラピスなど多品種。「でも実はファッション化が難しく、

斬新なアイデアなどを取り入れるというのはなかなか困難なんです」と氏。そのため印章に関連する商品をラインアップし、新たな需要を掘り起こそうと経営の多角化を進めたのが、鈴木屋から暖簾（のれん）を分けた山大というわけだ。

伝統産業としての維持、発展へ

「商品知識を持ち、接し方に気をくばる、迅速な対応、顧客の立場に立脚した使いが必須」と従業員には日々こう言っているという。業界の将来についてはと水を向けると…。

「将来の展望も必要なことですが、まず第一にこの伝統産業を維持することが大切です」。氏の言う通り六郷町の印章業というのは、宝飾や、水晶など山梨県の他の主要産業と比肩し、歴史と伝統に培われている。寛政3年（1791年）には、水晶印を県内はもとより隣国まで行商していたという。山村地域で農業経営が小規模であったということが、職人や行商人となる基盤を築いていったという。ちなみに印の営業マンのことを当時は「注文取り」といったとか。

「古いというだけに留まらず、新しい発想、新しい技術、近代的な経営ノウハウの移入、例えば大量生産のシステムを構築するとか、それによるコスト面、納期面での合理化。ハンコ製造の大拠点としての六郷町を中心に据えながら、顧客にハンコの新たな魅力、価値を見出し貢献するような、そんな産業を目指したいですね」と微笑む。休日はもっぱらテニスと読書で過ごす、38歳。

[取材：神山美佳]

どうよう「チャンコの会」

誰でもいらっしゃい 楽しく童謡歌いましょう
歌声が広がる 笑顔が広がる 人の輪が広がる

チャンコで歌おう

五味 朗
一瀬公弘

作詞
作曲

楽しく 明るく 声いっぱい
年も忘れて 子供のままで
今日も歌おう なつかしい童謡
歌えばちょっぴり目に浮かぶ
あの想い出が想い出が

これから みんなで歌いましょう
「チャンコ」で手をとり 輪をひろげ
あすの希望に 胸ふくらませ
楽しい童謡 歌いましょう
いついつまでも いつまでも

老若男女、職業も国籍も問いません 「チャンコ」鍋みたいな いい味出して歌いましょう

チャンコ？ 童謡サークルの名称にしてはちょっと風変わりだ。その由縁は？ 「お年寄りも若者も、女性も男性も、いろいろいっぱい集まっていい味を出そう」という意味を込めて命名しました」と、会の代表で指導者、童謡作曲家でもある一瀬公弘氏はいう。力士が食べるチャンコ鍋のように、肉も野菜もみんな一緒にぐつぐつ煮込んで、それぞれが味を出し合い、何ともいえないうま味を出す—そんな歌声が聞こえてきそうだ。

発足は平成4年5月。「日本が世界に誇れる“童謡”を、



「童謡はどんな人でも楽しめます」と話す一瀬代表

知っている人知らない人、また、年齢、性別、国籍に関係なく参加し、好きな歌を歌い合える仲間の会を作ろう」と一瀬氏が呼び掛けたのがきっかけだ。折しも童謡ブーム、多くの人が参加した。それ以来、常時30人以上、延べ150人の会員が、県立婦人会館で行われる月1回のレッスンで童謡を楽しんでいる。「どこかで発表するためにとか、コンクールに出場するために練習しているのではありません。レッスンに参加し、大きな声で歌って楽しむのが目的なんです。だから毎回自由参加。長く休んでいても、いつでもレッスンに参加できます。発表はあくまでレッスンの延長上にあるだけ」と一瀬氏は言う。「一瀬先生のレッスンは本当に楽しくて、月に1回のレッスンじゃ足りないって会員の皆さんが言うんですよ」と話すのは、事務局長を務める五味とめ子さん。



「一度参加してみて下さい」と五味さん



楽しいレッスンの様子



ステージも堂々とこなす

瀬氏と会員のパイプ役になっている。「甲府市内だけでなく、山梨市や春日居町、六郷町からも参加してくれています。年齢も40歳代から最高齢92歳までさまざま。主婦やお年寄りなど女性が圧倒的に多いのですが、男性も7名います。まさに“チャンコ”ですね(笑)」(五味さん)。会費も会場費だけで、レッスン代などは一切必要ない。会員は気の向いた時に参加して、楽しんで帰るという具合だ。

大きな声で歌えばストレスなんてとんでもない 気の合った仲間と楽しむことが最高

レッスンでは、前述の会歌「チャンコで歌おう」をはじめ、「富士山」「かあさんのうた」「しゃほん玉」「浜千鳥」など、誰でも知っている歌を歌う。歌うだけでなく、「幸せなら手をたたこう」などを振り付けで歌ったりもする。「歌っている人が主人公。とにかく楽しんでもらいたい。声を出すことが恥ずかしい人でも、大勢で歌っていると、隣の人につられて自然と大きな声が出てくるものです」と一瀬氏。五味さんも「歌を通して、今まで全然知らなかった人とも友達になります。人の輪を感じます。先生とも何でも言い合えますし、和気あいあい楽しい時間を過ごせれば、ストレスなんてなくなりますよ」と話す。言いたいことを言い合って、指導者と生徒の垣根を取り外すという一瀬氏のレッスン方法はなかなか好評だ。

発足当初から数々の発表の機会を得てきた「どうようチャンコ」。発足3カ月後に、やまびこ児童合唱団のコン

サートで初舞台を踏んで以来、翌年2月に竹内秀秋作詞生活記念コンサート(県民文化ホール)、同5月には親子ふれあいジャンボどうよう祭(白根桃源文化会館)、平成7年には第6回山梨どうよう祭(県民文化ホール)に出演した。最近は年6、7回のペースでステージをこなしている。「舞台に上がると、皆さん顔なんかいきいきしちゃって、背中もピンと伸ばして姿勢正しく美しく立っていますよ。もうあがるなんてことはないみたい。落ち着いてますよ」と五味さん。

今後の展開としては、全国各地の童謡の催し物に参加して交流をはかたり、老人施設への訪問、自主コンサートの開催などを計画している。一瀬氏は「童謡を歌うこと、楽しんでもらいたい。会員のお年寄りの中には、レッスンしたことを家に帰って孫に教えて、一緒に歌っている人もいます。若いも若きも、皆一緒にやって童謡のよさを味わってもらいたいですね」と話す。

[文：赤井美佐穂]

◆どうようチャンコの会◆

童謡作曲家の一瀬公弘氏が平成4年5月に創立した童謡を歌う会。メンバーは150人。月に1回県立婦人会館でレッスンを行っている。山梨どうよう祭に参加するなど、主に県内で活動している。「童謡を歌って、楽しい気分になる」のがモットー。11月17日には、御坂町で童謡のつどいに出演する。性別、年齢、職業、国籍にかかわらず、只今、会員募集中。

代表者：一瀬 公弘

連絡先：五味とめ子

〒400 甲府市国母5丁目12-9

TEL 0552-24-6814

早野グループ4社から 一番ホットな情報を届けします

「トヨタホーム統一工場見学会」開催

トヨタホームでは、来る10月26日（土）に、全国で栃木・春日井・山梨と3か所あるトヨタホームの住宅生産工場で全国統一の工場見学会を開催いたします。

当日は、トヨタホームの住宅生産ラインの見学はもちろん、据付けの実演や最新テクノロジーの実験などをご紹介いたします。また、ご家族連れの方にも充分お楽しみいただけるよう、おもてなしコーナーやヘルスチェックコーナー、木工教室などの各種イベント、さらに、豪華なプレゼントも用意しております。

この機会に是非、住まいの85%を生産する、クルマの最新技術のノウハウを活かした住宅生産工場をご自身の目でお確かめ下さい。

皆様のご来場を社員一同心よりお待ちしております。



トヨタ自動車㈱ 山梨事業所

工場見学をお申込みの方は、下記までご連絡下さい。

トヨタホーム山梨㈱
本社：中巨摩郡田富町河西1043 0552-75-1234

10月9日は「トラックの日」

全日本トラック協会は、平成4年度から全国傘下協会を挙げて、10月9日をトラックの日とし、それぞれの協会毎に業界の実態、環境保全への訴え、交通事故、労働災害防止の取り組み、後継者育成への対応等、広く一般に知らしめる目的で、様々な催しを実施しています。

そこで山梨県トラック協会は「トラックの日」スポーツ＆ゲームフェスティバルを開催します。平成5年から始めたフェスティバルは年々好評を博し、多くの県民の方々に参加をいただいている。会場ではプログラムに従って各種競技を楽しんでいただく一方、業界のPRや環境対策、事故防止対策のコーナーを設けるとともに、県トラック協会7支部、関係業界による模擬店も出店しますので、多数の皆さまの参加をお待ちしています。

◆'96「トラックの日」スポーツ＆ゲームフェスティバル

日 時 平成8年10月6日（日）10:00～15:00
会 場 甲府市小瀬町 小瀬スポーツ公園・芝生広場



甲府通運㈱
本社：中巨摩郡田富町流連4地3329-1 0552-73-0611

国土建設週間に3現場が表彰

第48回国土建設週間において、建設省中部地方建設局発注の下記の3現場が表彰を受けました。

1. 飯田国道工事事務所表彰（監理技術者表彰）

工 事 名 平成6年度153号松尾高架橋下部工事
統括責任者 宮沢邦久
現場代理人 近藤龍治
監理技術者 横川浩昭
工 期 平成6年10月1日～平成7年7月25日

2. 静岡国道工事事務所表彰（工事表彰）

工 事 名 平成7年度沼津管内西部路面補修工事
統括責任者 望月静男
現場代理人 渡辺章光
監理技術者 渡辺章光
工 期 平成7年9月30日～平成8年3月28日

3. 静岡河川工事事務所表彰（現場代理人表彰）

工 事 名 平成6年度安倍川水系蓮沢第3・第4床固工事
統括責任者 立川正文
現場代理人 齐田美咲
監理技術者 齐田美咲
工 期 平成7年3月14日～平成8年3月11日

トヨタビスタ山梨より、サイノスコンバーチブルが新発売になりました

サイノスコンバーチブルは、スタイリッシュなクーペサイノスをベースに、軽量、コンパクトな手動開閉式ソフトトップ（幌屋根）を採用した2+2シーターの新型オープンカーです。エンジンは、好評の1.3ℓ（4E-FE）と1.5ℓ（5E-FHE）を搭載した上でボディーの剛性を確保し、スポーティーで爽快な走りを追求するとともに、ABSおよびデュアルSRSエアバックを標準装備し、安全性の確保を図っています。また、視認性に優れたダイマー付デフォッガー内蔵ガラス製バックウインドウやオープン走行時の風の巻き込みを抑えるフロントドア三窓窓も採用しています。これは、トヨタがベース車両を製造し、米国でASC社が手動開閉式ソフトトップの架装を行うという国際協調により、完成した車です。また今回、専用外板色スーパーイエロー／イエロー調の専用シート表皮＆専用ドアトリムなどを採用した特別仕様車「イエローバージョン」も設定しています。



トヨタビスタ山梨㈱
本社：甲府市朝氣3丁目10-21 0552-32-5511

山梨で初めてのお雇い外人
ドイツからはるばると登美農園に
ぶどうとワインの専門家として招かれた人

ハインリッヒ・ハム

上野 晴朗

うえの はるお
1923年山梨市生まれ。歴史家・作家。県立図書館郷土資料室を
経て67年から文筆活動に入る。著書に「甲斐武田氏」等多数

今回はぶどうとワインの専門家として、双葉町登美高原の農園（現・サントリーナ山梨ワイナリー）に招かれてきた、ドイツ人技師ハインリッヒ・ハム（H・ハム）のことを紹介してみたい。明治草創期から「お雇い外人」の名のもとに、文明開化思潮が澎湃と湧き上がるなか、欧米から各種の専門家が日本に招かれてきたが、その中でもドイツ人技師H・ハムは異色のお雇い外人のひとりであった。

H・ハムはドイツのラインガウの南隣、ラインヘッセンのエルスハイのヨハネス・ハムの子供として1883年（明治16）に生まれた。1906年（明治39）から同地方の葡萄栽培学校に学び、優秀な成績で卒業。ドイツでも一流の醸造所・フィリップケーベル会社の技師として勤務していたが、明治44年（1911）28歳のとき、日本に招かれて渡ってきた。青木周蔵子爵の依頼で実現したのだが、ドイツの新聞でH・ハムの紹介記事の中に次のように記録されている。

「1910年、当時の葡萄栽培学校、今日のオッペンハイム農事試験学校へ、日本から問い合わせがあった。それは誰か富士山麓の雨の多い気候のところで、

葡萄栽培を成功させるための高度な専門的能力を持つ者を求む」というもので、学校側は、当時すでに葡萄の改良者および栽培者として名を成していたハインリッヒ・ハムを推薦した。たくさんの葡萄の苗木をたずさえて、ハム



H・ハム（中央）のあもかげ
右はハムを助けた農園技術の飯田庄太郎

は1911年の初め、日本人にいつかワインを飲むことを教えることができるという希望を胸に、シベリア鉄道で極東の帝國へと出発した。ハムの遠い親戚の、エルスハイムの人フィリップ・ハースは、今なお、ハムがはじめて故郷にもってきた日本産のワインの試飲のことと思い出すという。そのワインは

我々には、不自然なほど褐色がかり、ちょっとリースリングに似た味がした…』と記録している。

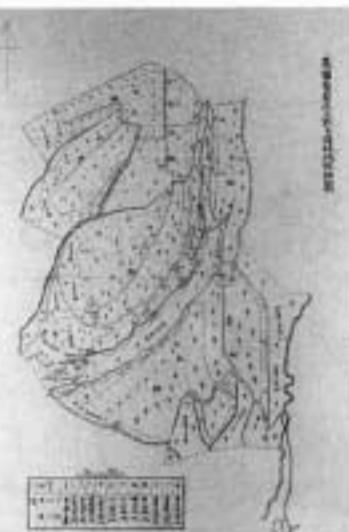
このようにH・ハムは28歳のとき、沢山の葡萄の苗木、砧木をもち、シベリア鉄道経由ではるばると日本にきたのである。甲府の駅頭まで多くの関係者の出迎えがあり、彼は早速、登美村（現双葉町）の葡萄園にのぼってみた。ところがその高原の地形が、自分の祖国ライン河周辺の景観にあまりによく似ていたので、その驚きと感激がひとしお大きかったという。

そもそも登美農園というのは、明治36年（1903）の中央線開通にからんで、その建設事業者の一人、東京の小山新助が目をつけたもので、彼は中央鉄道の甲府以西の敷設工事にきて、この太陽が焼々とぶりそぞく南面傾斜の丘陵に目をつけ、当時は道尾山と呼ばれて、その昔は入会林場であった場所を、政治的に150ヘクタール、この広大な原野をそっくり買って、ワイン醸造のために、お雇い外人H・ハムを雇い入れたのだという。

開拓地の山の上に宿泊施設が整うまでも、ハムは当分甲府のホテルから通勤することになり、そのため農園では彼



西ドイツ・ラインガウで発見された
H・ハムの日記
日本の農園時代のことが詳しく書かれている



当時の登美農園の規模



登美農園で飼われていた馬の娘
ハムが乗った中間の妻と娘と言われる

のために通勤用の乗馬を一頭提供した。その馬は日露戦争で敵将ステッセルが乃木將軍に贈った大将・中将という乗馬の中将の方で、そのころ乗馬で通勤するような人は、山梨では甲府四十九聯隊長くらいしかいなかったから、H・ハムの乗馬姿は、たちまち甲府の街々で有名になった。

H・ハムの一挙手一投足は、異邦人として単に物珍しがられたばかりでなく、葡萄作りの根本から日本人とかけ離れていたから、農園関係者はみんな好奇心をそばだてた。ちょうどハムが山にきたころ、山の斜面を開墾中で、何十人の人夫達が荒れた斜面で鍬を振っていた。その働く人夫達の模様を眺めていたハムは、急に通訳を通して、人夫達に向って「さかさに開墾をやれ！」と命じた。

日本人は普通、山の斜面の開墾というと、慣習として下から上に向ってガジ鍬をふるう。ところがハムのドイツでは、斜面の上方から下方に向って開墾をすすめるので、ハムはすぐ日本人の人夫達にもそれを命じたのである。これは良質の土を下へ落としてはならないという理詰めの考え方である。

いかにもドイツ人らしい発想である

けれども、とくにハムの生れたライン湖畔の葡萄畠は傾斜度の強い場所が多かったから、ハムはまさに習い性のままに、ライン方式の開墾の鍬を日本人にもふるわせたのであった。

さらにハムは、そのころはまだ日本では珍しい「天地返し」を強行させた。日本人は普通、上層の土を20~30センチならすばかりであるのに、土を1m以上掘り返させて、その下に落葉や青草を敷き込ませたのであった。

葡萄作りでH・ハムが一番本領を發揮したのは、そのころ防除に手をやいていたフィロセラに対する方策で、フランスやドイツではそのころすでに免疫性の強い砧木を用いて防除に成功していたので、ハムは当然この砧木を本国から輸入、同時にドイツ式の接木器も輸入して、接木を積極的に始めた。

こうして開墾と農園整備に心魂をかたむけたハムは、開拓5年目に入って漸く白と赤のワイン造りに成功した。もっともヨーロッパ種はまだほとんど育っておらず、アメリカ種ばかりでハムにとっては不満足のものだった。

ところがハムが農園造りに苦闘していった大正3年（1914）7月28日、突然第一次世界大戦が勃発、ドイツは世界の

強国を相手に戦争の火蓋を切った。そのためハムも祖国から召集をうけ、青島まで出征していった。軍人階級は技術大尉であった。その後日本もドイツを敵として参戦、青島を完全占領したので、青島のドイツ人捕虜はすべて日本に送られてきた。勿論その中にH・ハムも含まれている。

「H・ハムが捕虜になって習志野に来た」その一報がもたらされると、登美的関係者は目立たぬように懇意に行つた。ちょっと見ぬ間に明るかったハムの顔は苦惱に彩られ、憔悴しきっていたが、しかし、かつての助手達を迎えると大変喜び、その後の農園の動静を訊ね、ワインのこと、自分が接木した苗のこと、ぶどうの収穫量などを質問して一日を過ごしたという。日本政府はH・ハムの経歴を調べ、お雇い外人として日本の農政に尽したことを称えて、特例として解放しようと説ってくれたが、ドイツ人としての誇りを捨てなかつたハムは、これを断り、他の捕虜達と同じく大正8年まで捕虜生活を続けて祖国に帰っていました。そして故郷エルスハイムでは日本に尽した人として名譽市民に選ばれ、1957年（昭和32年）74歳で没した。

ボクの美術品観察日記3

「種をまく人」を「解剖」すると…

山本 育夫

やまもと いくお

詩人

ミュージアム・マガジン・DOME（ドーム）編集長
美術品観察学会主宰

その後の美術品観察学会

前号で紹介した美術品観察学会も、おかげさまで250人までに会員を増やした。こんな会があつたらいいな、という皆さんのがいが伝わってきたような気がして嬉しかった。すでに美術品観察学会の会報も4号まで発行され、毎月ぞくぞくと会員の観察報告が届いてくる。いろいろな県で皆さんのがんばりで美術品と出会っているのか、それは笑ましい様子が生き生きと描かれている。なによりも、いわゆる難しい批評文のような報告ではなく、日常的な視線からの発見や疑問、出会いの喜びが描かれているところが新鮮で、こうして毎月送られてくる報告を読んでいると、なるほど、一般の人たちはこんなふうに美術品と出会っていたんだと、いまさらのようにしみじみしてしまう。こうした「肉声」を拾うことなく進められてきた、美術品を巡るさまざまな出来事（美術館づくりや展覧会づくり、作品のコレクションや普及事業…）は、もう一度「肉声」をベースにした方向へとシフト

し直さなければいけなくなる時代が、もうすぐそこまで来ているのだろう。

あなたも学芸員に

美術品観察学会の会報は、毎月発行されている。大阪で、東京で、愛知で奈良で愛媛で…。いろいろな地域で出会った美術品の観察報告は、それぞれの会員のあっと驚く視線から見つめられていて、編集が楽しみなのだが、例えば3号には、上野の森美術館などに出現するギャラリートークおじさんの話題（頼まれもないのにお客さんに絵の説明をする不思議なおじさんの話）や、ゴーギャンの絵のサインが、描かれている人の顔の上に描かれていたことについての疑問、ピカソの馬を引く少年の絵に、肝心の馬を引く手綱が描かれていないのはなぜなのかなどの疑問が寄せられた。学会では、すぐに美術館に問い合わせて学芸員にそのなぞを説き明かしてもらい、再びその顔面を紹介するということも始めている。

関心のある方は下記の事務局宛ご一報下さい。年会費は1,000円（ただ

し、学生は無料）。会員になると毎月会報が送られます。会員は毎月観察報告を書いて事務局宛に送ることがノルマです。

山梨県中巨摩郡敷島町長塚
プロシード甲府909号室
美術品観察学会事務局
電話0552-77-9216
ちなみに学会のホームページも公開されている。
<http://www2a.meshnet.or.jp/yamaiku/>
電子メールは、yamaiku@mx.b.meshnet.or.jp

美術品解剖教室

さて今回は、美術品観察学会のホームページで紹介されている「美術品解剖大学解剖教室」の「種をまく人」解剖図について触れてみよう。ご存じミレーの「種をまく人」。1図はそのオリジナル。2図は、種をまく人が画面右手にドンドンと種をまきながら進んでいった後の光景である。空で群れをなして飛び交っていた鳥たちの姿も見えなくなり、右手後方で畑を耕していたおじさん

も牛たちも斜面の向こう側に見えなくなってしまっている。後には、ただ風が流れているばかりの光景である。

こうして種をまく人がいなくなつた光景をしみじみと見ていると、おや、こんなに大地は傾いていたのかと、あらためてその印象を強くすることになる。それではこの大地が傾斜していなくて平らだったらどうなるだろう？というわけで、すぐさまマックを起動し、フォトショップで大地の傾斜を加工してみたのが3図である。1図と3図を見比べてみると、確かに1図のほうが種をまく人のダイナミックな動きが強調されて見えるよう気がする。

解剖して見てくるもの

美術品をこんなふうに「解剖」してみると、おもいがけない印象が現れてきて、あらためて画家の試みがよくみえてくることもある。絵画というものは、そのすみから今まで画家が描かないことには描かれないのだ、というごくあたりまえの事實を、案外ボクたちは忘れがちである。そこに鳥が描かれ、そこに牛車が描

「種をまく人」
ジャン・フランソワ・ミレー
1850年
山梨県立美術館蔵

1回



2回



3回

雲の形も 虫の音も すっかり秋
アトピーにも効く?とかいう山の温泉で
夏の疲れをいやしましょう



虫の音が耳に心地よい季節になりました。もうすっかり秋。あの焼けつくような暑さや、ギラギラした太陽は遠い昔のことのようです。今年はどこで何をして遊びましたか?えっ、仕事づくめ?これは失礼いたしました。いっぱい遊んだ人も、いっぱい仕事した人も、夏の疲れはもうすっかりとれましたか?疲れがとれない人に、MUHから耳よりな情報を提供しましょう。体も心もリラックスといえば、そう“温泉”です。遠出したのでは、かえって疲れてしまう恐れあり。そこで、今回は日帰りで行ける山梨県内の温泉を紹介しましょう。

●アトピーに効くという噂の温泉

最近は市町村ごとに素晴らしい温泉施設を建てています。もちろん市民町民村民以外でも利用OK。入浴料も安いし、施設も充実しています。県内の数ある公営温泉施設の中から、今回MUHがオススメするのは東山梨郡大和村の「やまとふれあいやすらぎセンター」。何故って?実はこの温泉、アトピー性皮膚炎によく効くと大評判なんです。

「やまとふれあいやすらぎセンター」は、1994年5月オープン。泉質はアルカリ性単純温泉。湯温30度以上の温泉としては、日本最高レベルの高アルカリ性温泉だそう。皮膚に効果がある以外に、神経痛、関節痛、慢性消化器病などにも効

果があります。

浴室はもちろん男女別で、男女それにジャグジー、露天風呂、露天風呂、湧き出るそのままの温度の源泉風呂など、街中にあるクアハウスも頗負けの豊かなバリエーション。浴室1つ1つがちょっと小さいのが難点ですが、清潔さ、リーズナブルな料金を考えれば、おつりがくるくらいですよ。



多種多様な風呂「山梨の温泉」(山梨日日新聞社刊)

●源泉利用で肌美人

お湯につかって体をさわってみると、かすかにヌルヌルする感じがします。このヌルヌルが、皮膚の表面に被膜をつくるので、肌にいいという一説も。しだいにヌルヌルからスベスベになってきて「あら私って、シルクの肌」と、つい勘違いをしてしまいます。

露天風呂もなかなか。こちらも少々狭いのですが、鳥の声や川のせせらぎが聞こえて、何ともいえないリラックスした気分になれます。一緒に入っていた人は

神奈川県の藤沢市から来ているそう。「月に2、3回は来ますよ。肌にいいって聞いて。通い始めて3年目になりますが、季節の変わり目に必ずおこす肌荒れがなくなりましたよ」と話してくれました。そういえば、駐車場には県外ナンバーがかなりありました。源泉につかっていた学生さんは、「源泉を持って帰って、化粧水にしています。お隣でアトピーがすっかりよくなっている」と嬉しいです。村のおばちゃん達は、温泉をペットボトルに入れて持ち帰り、1度沸かしてから飲み水に利用しているそうです。温泉スタンドも施設の裏にあるのですが、こちらは100リットル100円なので、運ぶ車とタンクがあれば、どうぞ家庭で大和の湯をお楽しみ下さい。

土日は葡萄狩りや紅葉狩りの観光客で混雑するので、ウイークデーがオススメ。特に、定休日あけの木曜日は清潔感いっぱい、もっとオススメ。一度お試しあれ。

〈やまとふれあいやすらぎセンター〉

料 金 村 民 大人1日400円

小人1日200円

村民外 大人1日700円

小人1日300円

休館日 毎週水曜日、年末年始

開館時間 10:00~20:00 (4月~10月)

10:00~19:00 (11月~3月)

所在地 東山梨郡大和村木賊517

☎ 0553-48-2000

こんなところに山梨思ひがけない場面でふるさと再発見

月の美しい季節を迎えたが、月など見上げてたたずんでいれば、どうした、月に何か異変でも起こったかと問われかねない。現代人は月に科学的興味は示しても、かつての日本人のように、月を讃えて宴をひらき、酒を飲み、歌を詠むというような情感に浸ることはまれに違いない。

昔の人々がどんなに月と親しく付き合ってきたかは、月の満ち欠けとその呼び名を指に折ってみることで伝わってくる。

寝待月(ねまちづき・20日の月)、居待月(いまちづき・18日の月)、立待月(たちまちづき・17日の月)、十六夜(いざよいづき・16日の月)、望月(もちづき・15日の月)と、月と向かい合う人々の表情までもが見えてくる。

そして、月の祭りは、秋の十五夜と十三夜。つい3、40年前まで、山梨の各地にはそれぞれ月を迎える行事が伝承され、暮らしのなかに息づいていた。「すたまのお祭り 食ごよみ」(須玉HITO文庫)は、そうし

ふるさとの人々は月とどう付き合ったか 十五夜、十三夜 月祭りと暮らしの情感

た伝承を語り継ぐ本であり、ああ、こんなところに山梨があったかと、懐かしい感慨に誘ってくれる内容に満ちている。須玉の十五夜は、縁側に台を置き、スキを敷き、月見団子と収穫のはじまつばかりの山のクリ、畠のマメ、サツマイモ、ブドウなどを供えた。団子はもちろん、

新しい穀類からのお供えものである。十五夜は第1回目の秋の収穫感謝祭でもあった。そしてお神酒を供えた。秋の七草も飾られた。

子供たちは十五夜や十三夜が楽しめた。垣根のかけからお供えを狙い「あげおくんねえ、さげおくんねえ」「あげたかえ、さげたかえ」と大声で叫びながら、針金を付けた棒で突いていった。どの家でももちろん承知で、エダマメやクリの包みを土産にもたせた。十五夜をしたら十三夜をしないと「片見月」といい、十三夜も同じように月見の支度がされた。新しいお供えとしてダイコンが加わった。このダイコンをたくさん取られるのは味のよい証拠で、縁起がいいともいわれてきた。

こうした行事はいつから失われたのか。といえば、月ヘロケットが飛んだ頃からだったような気がする。

(石)

参考資料「すたまのお祭り 食ごよみ」(須玉HITO文庫)

Book

山梨の老人福祉ガイド 「宝の小箱」

宮本和男 著



発行・宮本和男
〒400 甲府市住吉1-13-18
TEL 0552-33-5255 ¥2500 (送料別)

山梨県内の社会福祉施設を取り扱い、各施設の内容を紹介するガイドブック。探訪した施設はなんと66ヶ所。環境や規模はもとより、利用者たちの生活ぶりまでが紹介され、社会福祉の現状が実感できるとともに、これから課題も提出されている。

社会のかたちがこれまでになく変わっている。人口の高齢化が進み、長寿社会を迎え、また、家族の数も少なく、子供の数も減少傾向で、核家族化も進んでいる。外で働く母親たちが増え、家庭環境も変化している。

長寿時代のみんなの願いは、長生きが幸せである人生である。そして、お互い

を尊重し合い、健康で生きがいをもって暮らせる社会づくりである。しかし、健康で、幸せな生活を望みながら、寝たきり老人をはじめ、介護を必要とする高齢者は増加しつつある。高齢者の増加も避けられない傾向だ。

一方で、介護はなかなか家庭では満足にはできず、介護疲れで家族の健康がそこなわれたり、生活のリズムがおびやかされたりと、新しい問題を引き起こしている。なによりも、介護の知識や技術不足で、心が伝えられないのが残念だ。

こうした問題に応えてくれるのがこの1冊。介護サービスが必要な人のためのQ&Aもあって行き届いている。(川)

会いたい人から 会いたい人へ
知りたいことから 知りたいことへ
リレーでつなぐエッセイ

戦国城下町「甲府」



数野 雅彦

かずの まさひこ
山梨県考古学協会

私は、武田神社の真裏に当たる古府中町に生まれ育った。

大学受験の頃は大都会での一人暮らしを夢見て、故郷からの脱出を図ったが、運悪く（？）計画は頓挫した。従って、未だに家を離れたことがない。

学生時代は考古学研究会に入って発掘調査に参加した。興味を持っていたのは縄文土器であったが、本格的な研究をした訳ではない。

縄文土器の勉強はその後も継続したが、昭和61年を契機に研究対象を戦国城下町に変えることにした。自分の住んでいる一帯が、かつて武田氏領国を中心とした戦国城下町・甲府の一角を占めていることに気付いたからである。

武田信虎が石和の館（甲府市川田町）を引き払い、現在の武田神社の地に館を移したのは、477年も前の永正16年（1519）のことである。

山梨県というと、信玄の存在が余りに偉大であり、ものごとのルーツを彼に求める武田信玄中心史観が今もなお脈々と生き続けている。これに対して信虎は泣く子も黙る悪逆非道の人物として語り継がれている

が、甲府の城下町を開いたのは間違いないなく信虎である。

甲府の街の恩人なのだから、「信虎餅」や「信虎の煮貝」といったお土産を製造して信虎の事績を顕彰し、信虎の汚名挽回を図るのが、甲府市民の務めではないだろうか。

話は脱線してしまったが、「リレーエッセイ・まち物語」の主旨に沿って、信虎の建設した戦国城下町・甲府について概略を記しておこう。

驚くことに、信虎の開創した城下町は、當時としては珍しく、きちんととした都市計画に基づいて建設されている。相川扇状地の一角、つつじヶ崎の地に造営された方形の館は2町（1町=約109m）四方の規模を誇った。戦国大名の居館としては、なんと最大級である。

城下町も、古府中町一帯からJR中央線に及ぶ広大なもので、東西約2km・南北約3kmを測る。館の中心線上に位置する現在の武田通りを機軸として、城下町には2町間隔で設定された5本の南北主要街路が通り、小京都の外觀を呈していた。

山梨大学通りから北側に屋敷を構えたのは武田の一族や有力家臣であ

る。武田神社周辺に残る造軒屋敷・土屋・典厩といった小字は、武田道遼軒信綱や土屋右衛門尉・武田典厩信繁の屋敷地の存在を示している。

これに対し城下町の南半には商職人が住んで、活況を呈した。居酒屋もあったというからありがたい。城下町の東西出入り口には八日市場と三日市場が開設され、住人への物資の供給を行った。寺院は家臣屋敷地を取り囲むように建設されている。

城下町の防衛体制も万全で、詰城の要害城を初め、砦やのろし台・関門などの施設が20か所も確認されている。信玄が国内に城を持たなかつたというのは真っ赤なウソで、城下町一帯が要塞化していたのである。

話は堅苦しくなってしまったが、大規模な城下町の建設は、北条・今川などの国外諸勢力に対して、甲斐の戦国大名たる信虎の地位を認めさせようとする一大デモンストレーションであったに違いない。

甲府の街は2019年に遷都500年を迎える。県庁の移転や市町村合併なども論議されているが、強烈なリーダーシップをもった信虎なら、どんな街づくりを目指すだろうか？

甲府通運前史を訪ねる（4）

<甲府通運のページ>

大戦後の混乱期を経て
新会社「甲府通運」誕生す

林 陽一郎

はやし よういちろう
山梨県教育委員会・県史編纂文化財担当



田富町の県流通団地にある
甲府通運本社社屋

昭 和21年（1946）、新憲法の公布により、旧法令の多くは新法体制のもとに改められていった。「自動車交通事業法」も22年に廃止されて新「道路運送法」が公布された。終戦時の状況について県トラック協会25周年記念誌「道と車で織る四十年史」にはつぎのように記されている。

『昭和23年11月3日運輸省当局より小運送業複数制化実施令あり、早野は早速昭和23年12月1日附にて小運送自動車株式会社名にて小運送業免許申請書を甲府管理部に提出す。対立者としては山梨貨物運送社長河西氏あり、當時山梨貨物も事業力旺盛でありますましたが早野は先代よりも遺業を守るために必勝の決意にて許可獲得のため奔走、その結果山梨貨物を押えて認可がおりたのが現在の甲府通運の創立となったのです』

甲府通運の前身である甲府小運送会社は免許通運会社である日本通運の下請が主たるものであったため、甲府地域に新規免許会社が出現するとなると日本通運の下請事業の受注も激減することとなり、会社存続の立場からも競争相手である山梨貨物に先んじて免許を得る必要でもあった。『……又現在地場扱いも相当ありますがこれは大部分下請集配の延長として生まれるもので下請集配が不

も一般貨物自動車運送事業の免許を得て営業を開始している』

この間の事情について創設者早野欽介は、「甲府通運株式会社設立について」つぎのように記している。

『昭和23年11月3日運輸省當局より小運送業複数制化実施令あり、早野は早速昭和23年12月1日附にて小運送自動車株式会社名にて小運送業免許申請書を甲府管理部に提出す。対立者としては山梨貨物運送社長河西氏あり、當時山梨貨物も事業力旺盛でありますましたが早野は先代よりも遺業を守るために必勝の決意にて許可獲得のため奔走、その結果山梨貨物を押えて認可がおりたのが現在の甲府通運の創立となったのです』

甲府通運の前身である甲府小運送会社は免許通運会社である日本通運の下請が主たるものであったため、甲府地域に新規免許会社が出現するとなると日本通運の下請事業の受注も激減することとなり、会社存続の立場からも競争相手である山梨貨物に先んじて免許を得る必要でもあった。『……又現在地場扱いも相当ありますがこれは大部分下請集配の延長として生まれるもので下請集配が不

したのです』

この文から創設者事業熱と従業員に対する愛情を知ることができる。このようにして昭和25年に免許を得て、取締役社長早野欽介、専務齊藤英次郎、常務小野吉利、取締役近藤克己他四名という経営陣と七十余名の従業員とそれを後押しする二百余の家族で甲府通運株式会社は発足したのである。（終）

「外国車なんて目じゃない。乗用車の究極」
デザイン、瞬発力、安定性
車好きの社長が太鼓判を押すアリスト

有限会社 サイトー冷熱

国道141号線沿いに事務所を構える「サイトー冷熱」。ビルや一般住宅の空調施工・メンテナンス、また、特殊空調の設計・施工・メンテナンスをしている。仕事の範囲は山梨県内だけでなく、長野や新潟にまで広がっている。

仕事が車は必須アイテム。トヨタビスタの車は、ハイエースバン、ランドクルーザープラド、アリストの3台を所有している。



「仕事上、オールシーズン、どんな条件でも耐えられる車が必要なんです。四輪駆動であることも絶対条件。その点プラドは、よく働いてくれますよ。真冬、塩尻峠頂上の電波塔の空調メンテナンスに出かけた時も、道なき道を進んで頂上まで登ってくられましたしね。乗り始めてもう4年になります」という齊藤均社長。ハイエースとプラドは主に仕事に使っている。ある時は山の上、ある時は地下と、仕事の範囲が広いだけに、起動力のある両車が活躍している。

試乗なしで注文。納車されて乗った瞬間「あっ、やっぱりこれだ」と、その素晴らしさを実感したという。

「車っていうのは、長い登り坂でその良さがよくわかるんですよ。アリストは、たいがいの坂をキックダウンしないで登っていきます。静かですね。見た目はどっしりと落ち着いているんですが、瞬発力がすごい。BMWやベンツなんて目じゃない。もちろんハンドルのぶれもなく、安定性も抜群ですし」と齊藤社長は目を輝かせて話す。

社長、本当に車が、いえ、アリストがお好きなんですね。

〒407

韮崎市藤井町北下条1284

TEL 0551-22-9777

高い天井で快適空間を演出
27歳で手にしたマイホームは
愛娘誕生とともに歳月を重ねる



依田和幸さん宅（若草町）

依田家のタイプはトヨタホームの「フォーレ」。玄関を入ると、広々とした空間が感じられる。リビングに入っても、8畳とは思えないくらい広々している。「どうして？」と周りを見回していると、ご主人・依田和幸さん（27）が「天井が普通より20センチ高いんですよ。だからじゃないかな」と説明してくれた。なるほど、言われてみれば確かに天井が高い。しかし、不自然さは全く感じられない。20センチで、これほど差ができるなんて。限られた空間を上手にいかす有効な方法だ。

「結婚して2年半くらい、鷹形町の

アパートに住んでいましたが、毎月毎月家賃を払っていくんだったら、思いきって家を建ててローンを返していくたほうがいいんじゃないかということになりました」と依田さん。隣で奥さんの真由美さん（26）もうなずく。

こうして今年の4月、和幸さんの実家の田んぼを分けてもらって、若夫婦のマイホームが完成した。家の前は見渡す限りの田んぼ。風が強いのが少々難点だが、眺めが抜群によい。「8月には、リビングから市川大門の神明の花火がきれいに見えましたよ」。うらやましい限りである。

キッチンには真由美さんの意見が反映された。依田家のキッチンは、リビングダイニングキッチン。ダイニングとキッチンは対面式になっているが、リビングからキッチンは見えない設計になっている。「キッチンは家中で一番汚れる所ですからね。お客様から見えるのはちょっと…」と真由美さんが言う。台所は女性の聖域。やはり女性の使い勝手のよいのが一番。

和幸さんは父親と一緒に屋根工事を営んでおり、トヨタホームの協力会社もある。今まで各地のトヨタホームの屋根に瓦をのせてきた。もちろん我が家の屋根も「自分の手でのせました」とニッコリ笑う。和幸さんは「仕事上たくさんのトヨタホームを見てきました。そのよさを十分わかっているので、プライベートでもトヨタホームを選びました」と話す。

もう1人の家族を紹介するのを忘れていた。1人娘の明菜ちゃん（6ヶ月）だ。明菜ちゃんもこの家と同じ4月生まれ。ただ今、すくすく成長中。これから、この家とともに年月を重ね、思い出を重ねていく。すこやかな成長を…。



ワンポイント情報

〈トヨタビスタ山梨〉

個性あふれる3人が新クレスタCFで共演

昔、学生時代にバンドを組んでいた古い友人が、隠れ家に集まって遊ぶというストーリーのこのCFに登場するのは、沢田研二、玉置浩二、高橋幸宏の3人。このストーリーを「実力がある」「遊び心がある」「大人である」というイメージで演じることのできるミュージシャンを、という条件でキャスティングされました。それぞれの役どころは…沢田さんが、3人の兄貴分で有言実行タイプ。玉置さんが、いつも明るい盛り上げ役で細やかな気遣いもできる情熱家。高橋さんは、いつもクールなまとめ役。それぞれジャストフィットする役を、生き生きと演じています。

舞台は都会の「隠れ家」的な家。大人の男が日常から離れ、ゲームに没頭したり、ときには一緒に歌ったりと、自由気ままな楽しい時間をすごせる場所なのです。実際の撮影でも、3人の個性が大いに發揮されました。



CFで歌われている音楽は、3人がバンドを組んでいた時にウォームアップ代わりにセッションしていた、という設定の「Time is on my side」という曲。「なつかしいねえ」を連発しながらのレコーディングは、「実力がある」3人だけにリハーサルなしの一発OK。レコーディング終了時には、思わずスタッフから拍手が沸き起こったほどの乗りのよさでした。

「セダンという生き方」をテーマに隠れ家に集う3人の楽しいストーリーが、これからも続々展開していきます。どうぞ、ご期待ください。

〈トヨタホーム山梨〉

『'96やまなし住宅フェア出展』

来る11月16・17日(土・日)の両日、トヨタホームでは、『'96やまなし住宅フェア』に出展する運びとなりました。

今年のキャッチフレーズは

《応援します、あなたの夢…'96住宅フェア》です。

『やまなし住宅フェア』は、今年で7回目となり、会場は小瀬スポーツ公園の体育館にて開催されます。開催以来、毎年数多くの来場者があり、住宅や、住宅に関する設備機器、インテリアなどの展示や情報の提供があります。また、ご家族連れの方でも模擬上棟式のもちまきやお楽しみ抽選会、お子様にも充分喜んでいただけるショーなど、各種イベントが盛り沢山です。

住宅を計画中の方は、住宅に関する基礎知識を高めるのはもちろん、計画のない方でも充分にお楽しみできるはずです。

是非ご家族の皆様とご来場され、あなたの夢実現への第一歩として下さい。

「家族を楽しむための暮らしづくり」
私達プロが提案いたします



トヨタホーム山梨営業部 本社営業グループ
左から 兵藤秀一(塙山)、望月繁(樹形)、川口達(鰐沢)、
望月俊克(甲府) 黒呂川和江(春日居)

ときのひと・FACE

人を結ぶ地域と結ぶ
知ってほしい心の交流スポット

<早野グループのページ>



雨の日の悩みを解消

廃材を利用し、人に、地球にやさしい舗装材開発
透水性、弾力性、耐久性は抜群
周囲の自然にとけ込む未来型の舗装です

新舗装材エコメロウマットを開発した

早野組土木本部舗装部主査 水上至永さん(牧丘町) 40歳

透水性、弾力性に優れた新舗装材

雨の日、歩道にたまつた水でスラックスやスカートを汚した経験がないだろうか。それ違う人に跳ねを飛ばされたり、轔を通った自転車に雨水をかけられたり…、誰でも一度は腹立たしい思いをしたことがあるだろう。

しかし、その心配がない舗装材が早野組から開発された。“エコメロウマット”というこの舗装材は、透水性に優れているため、舗装の表面に雨水をためない。一見するとアスファルトの舗装道路のようだが、土の道により近いものになっている。この画期的な開発をしたのが八田プラントに勤務する水上至永さんだ。エコメロウマットは豆砂利と工業用の廃ゴムチップを混合して、ウレタン樹脂で固めたものだ。ゴムチップだけ、砂利だけの舗装材が一般的だが、両方をミックスしたこのエコメロウマットは早野組のオリジナル製品。ただ今特許申請中だ。

エコメロウマットは透水性に優れているばかりではない。「通常の舗装とは全く違い、弾力性に富んでいてとても歩きやすいんですよ。それに色も自由に選択できますし」と水上さんは言う。豆砂利の色彩が自然な感じをかもしだすし、耐久性



開発したエコメロウマットの特長を熱心に説明する水上さん

にも優れている。主に、遊歩道や玄関アプローチ、ベランダ、屋上などに利用されている。最近では、甲府南高校のベランダ、早川町福祉センターの玄関アプローチと中庭に使われている。「歩きやすいし、水がきれいに浸透する」と評判は上々。お年寄りや身障者にも好評だ。

自然を大切にする心

「プラント工場から出るドロを何とか再利用できないかと思い、ドロの粒(塊)と廃ゴムチップで舗装材を作ろうと開発を始めました。平成5年の9月ごろです。でも、強度の面でうまくいかず、廃ゴムと豆砂利を混ぜたところ透水性、弾力性、耐久性に優れたエコメロウマットが完成しました。平成6年の9月から製品化になっています」(水上さん)。廃材を利用することによって、積極的にリサイクル活動に参加している。水上さんは「自然を大切にする意味で、できるだけ廃材を使おうと思っています。人にやさしいこのエコメロウマットの歩道が、これからの主流になっていくと思います」と言う。

今は手作業で行っているマット作りだが、今後は機械化しコストダウンをはかっていく。エコメロウマットの歩道を数多く身近で見る日が近いかもしれない。

おしゃれ BOOK・OFF



営業時間 10:00-0:00
定休日 無休
所在地 甲府市和戸町943
TEL 0552-26-5922



「古本屋」のイメージ新!! 探していた本やCDを手に入れるチャンス

「いらっしゃいませ！」の元気な声に迎えられて入ると、広い店内にはハードカバー・文庫・コミック・写真集・洋書・専門書…と様々なジャンルの本がズラリ。

さらにCDやLD、ビデオまでが並び、お目当ての品を熱心に探す人でいっぱいだ。かつての“古本屋”的イメージとはうって変わった明るい雰囲気。

「たいていのものは揃っていると思います」と話すのは、店長の杉山さん。「新しい本ができるだけ早く安く、お客様に提供しようと心掛けています」という店長の言葉通り、中古とは思えないようなきれいな装丁で売られている。ベストセラーを販売せたばかりの新刊から思わず掘り出し物、人気のCDやビデオまでが安価で手に入るとあって、本好き・音楽好きにはたまらない。また読み終った本や不要なCDなどは買い取ってくれるため、処分に困っている人は相談してみては？数が多い場合は出張もOK。本なら100冊以上、CDなら50枚以上で引き取りに来てくれる。

たべる デニーズ



営業時間 24時間
定休日 なし
所在地 甲府市和戸町943
TEL 0552-37-5476



ヘルシーメニューが好評 24時間食事が楽しめる安心のレストラン

『BOOK・OFF』の東隣が、7月27日にオープンしたばかりのフレッシュなファミリー・レストラン『デニーズ』。ログハウスのようなおしゃれな内装と吹き抜けの天井が、ゆったりとくつろげる空間を演出している。家族はもちろん、周辺には大学が多いためか、学生など若者達でもにぎわう。

「24時間営業しているので、いつ訪れても食事ができるというのが好評なようです」と、八木店長。夕食を食べ損ねてしまった時やちょっとした夜食を取りたい時など、確かにこの存在はありがたい。大きな通りに面しているため、気軽に車で入りやすいのも魅力だ。子供から大人まであらゆる人が食事を楽しめるメニューばかりだが、中でも最近力を入れているのが、健康食。メニューには「有機野菜を取り入れています」と、おいしいだけでなく体にも良いものが揃っている。女性に人気のパスタやデザート類も健在。季節によって違うメニューも登場するので、チェックは忘れずに。

お茶の間の民俗学（1）

一年中行事の習俗とその心

・冬至
・正月

志摩 阿木夫 民俗研究者
しま あきお

冬至に寄せた先人の思い

12月22日ごろ、二十四節気のうち22番目に当たる冬至となる。暦の上で冬の季節は立冬から立春の前日(節分)まで90日間あるが、冬至はその真ん中に位置する節氣で、この日は1年のうちで最も短い時間が短いとされている。つまり太陽の力が一番弱まる日と観念され、太陽の恵みを得て命を保ち、暮らしを営んでいる生きとし生きる総ての生物が、同時に力を失う日と考えられ、神に祈って太陽の復活を願う、いろいろの行事が行われた。

とりわけ一般的なものには、この日ユズを使った料理を食べたり、ユズ湯を焚いて入浴したりすることが、なぜユズがこの時季登場するかというと、ユズをはじめ香りの強い植物や食物には邪氣を払う呪力があると考えられ、ユズの場合も太陽の復活を願うため、冬至の神さまを迎える手段として、心身の浄化を図らなくてはならないので、ユズ湯に心身をひたして邪氣払いの呪術を行う習俗なのである。

またこの日カボチャを食べる習俗は、ほかの野菜に比べて、カボチャは寒い最中でもシミることもなく、豊かな栄養を保っているところから、

その逞しい生命力にあやかって、これを食べることで自らの活力を復活させようとしたものである。

冬至が過ぎると一日に米粒ひとつ分、日脚が延びるというが、山梨の言い伝えに「冬至十日の居座り」というのがあって、冬至が過ぎても目に見えて日脚の延びは実感できないが、10日ほど経った正月の2日になると、いくらか日脚の延びを感じられるようになる。

この言い伝えも先人の知恵の現れである。

正月は歳神迎えのとき

毎年どこの家にも、誰の身の上にも正月は訪れてくる。ところで暮になると「お正月さまが来る」という言葉が盛んに使われるが、どこから誰が来るのだろうか、人びとはその疑問をはっきりさせないまま、毎年正月を迎えていている。

日本民俗学の上では、正月に訪れてくる神さまは歳神さま、或いは歳徳神という名の祖靈神で、人びとの住む里の近くにある山から訪れてくるのだといい、何をしに訪れてくるのかというと、里の人びとが1年生きて働くことのできる、力を持ってくれるのだという。

そうなると人びとはこの歳神さま

を、丁重にお迎えしなくてはならないので、年の暮のうちから歓迎の準備をするのである。

まず心身を浄化し、環境を整え、神さまの目印となる依代としての門松飾りを施し、供物としての餅をつき、その餅で供え餅をつくって、貧富を問わざずこの家にも7日間滞在する歳神のための御座所である歳神棚に供えるのである。

歳神さまはいつ家々を訪れるのかというと、大晦日の夕方、太陽が西の山に沈むと訪れてくるというので、12月31日の日に門松飾りや供餅づくりをして、神さまに失礼ということで避けられている。

大晦日の夕食は歳神さまと一緒にする、いわゆる神人共食であって、このときの料理が本来の「お節料理」である。この夜を除夜と呼んでいるが、遠いところから遙々祖先の神さまが訪れて来るので、神さまをお護りするため、家人は寝ることをしないことから、夜を除く意味で除夜といわれるのである。

除夜には寺々で除夜の鐘といつて108回の鐘が打たれるが、人間の持つ108つの煩惱を、ひとつひとつの鐘の音で打ち払い、無心の状態で新しい年への出発をするという。これまた先人の尊い教えである。

某月某日
「O-157」報道を見ながら
危機感に襲われた
確かに前回は
「アトランタ五輪ではなかったか…？」と



×月×日

「O-157」渦と言おうか、野菜の需要が極端に落ち込んだ。悪い物の代名詞となってしまったカイワレのみならず、ナス、キュウリ、レタスといった食卓を彩ってきた野菜たちの姿がやけに寂しく写る。近頃は沈静化した感のある「O-157」という細菌コードも連日連夜、マスコミの組上に上っていた。

有名医科大学の医学博士から町の開業医、果ては漢方医までもが、食中毒キャンペーンのアドバルーンを打ち上げた。これが連日の猛暑と相俟って、市井の人々の食欲と胃袋とをネジ上げるには充分すぎるものだった。そして、その揚げ句が、かの厚生大臣のパフォーマンス。

一頃はニュービジネスのヒーローと宣伝され、ダイエットブームの先鞭をつけたとマスコミから囁かれてられたことのある“悪名高き一あのカイワレ”を、ムシャムシャと食べる姿を、どのチャンネルも映し出す。まさしく「世を挙げてのO-157」である。

そう言えば、少し前までは—
「世を挙げてのアトランタ」
「世を挙げての某宗教団体」
「世を挙げての住専処理」

一ではなかったのか、と。ふつと思う向きはいないか。

マスコミやメディアによる世論操作とは言えないまでも、これ程までに大衆の指向や、ベクトルが一致して流れる国、あるいは国民性は、世界史上でも希有ではないか。このようないくに政治学で大衆扇動が簡単にできるシステムを、犬に追われる羊の群れにたとえて「ネイションシープ(羊の国)」という。

象徴的な出来事「一人の人物が死んだ」があった。戦後51年目の盛夏、この日本の国民性をいち早く唱え立えた巨人が逝った。丸山真男氏。日本の政治学の中でまさしく輝ける知性だった。氏は、半世紀前の名著「超国家の論理と心理」の中でこのような日本人のことを順応主義（コンフォーミズム）と説いた。

「こんな島国において、99%の人が確信していることを信じないといふこ

とが、どんなに辛いことか。国家権力から追われるより、世間からの孤立、多数からの孤立感が恐怖なんだ」

そう言って、閉じられた集団の順応主義の怖さを説いた。

この順応主義はそのまま既成事実への順応へと続く。「政治は悪い」「住専は悪い」「官僚は悪い」「カイワレは悪い」「××は悪い」である。このマイノリティーの存在を許さない全国民同一の価値観こそが、氏が最も憂い恐れた日本人の『大勢』への順応である。

「僕の青年時代は、日本中が某宗教団体だった」。戦前、戦中の「一億一心」の時代と何が変わったんだと、氏は言った。

戦後51年目の夏、過熱するO-157報道に揺れる国民を尻目に、唯一の世界的政治学者・丸山真男氏が世を去った。この世界的視学の遺言ともいえる順応主義を日本人は克服していない。

「民主主義の教科書には教育勅語がいい」。氏の好きな言葉だった。

〔文：新海 賢〕